

短大特任教員教育研究業績書

平成30年4月5日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
萩原 恵里	はぎわら えり	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・講師・ 助教	男・ 女

担当科目名

音楽表現ⅠA,ⅠB
音楽表現Ⅱ

学 歴

和暦(西暦)年月	事 項	学位
平成8(1996)年4月	京都市立芸術大学 音楽学部 ピアノ専攻 入学	
平成12(2000)年3月	京都市立芸術大学 音楽学部 ピアノ専攻 卒業	学士(音楽)
平成13(2001)年4月	ドイツ国立ヴェルツブルグ音楽大学大学院 (Hochschule für Music Würzburg) 入学	
平成16(2004)年7月	ドイツ国立ヴェルツブルグ音楽大学大学院 (Hochschule für Music Würzburg) 修了	演奏家修士 (konzertdiplom)
平成17(2005)年4月	大阪教育大学大学院 教育学研究科 芸術文化専攻(修士課程) 入学	
平成19(2007)年3月	大阪教育大学大学院 教育学研究科 芸術文化専攻(修士課程) 修了	修士(芸術)
平成25(2013)年4月	兵庫教育大学大学院 人間発達教育専攻 幼年教育コース(修士課程) 入学	
平成27(2015)年3月	兵庫教育大学大学院 人間発達教育専攻 幼年教育コース(修士課程) 修了	修士(学校教育学)

教育歴・職歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
平安女学院大学短期大学部保育学科	平成17年4月から 平成18年3月まで	非常勤講師(器楽)担当
神戸常盤大学短期大学部幼児教育学科	平成20年4月から 平成24年3月まで	非常勤講師(器楽)担当
兵庫県立西宮今津高等学校総合学科	平成21年4月から 平成25年3月まで	非常勤講師、特別非常勤講師(ピアノ演奏法、ソルフェージュ、ポピュラーピアノ、音楽史)担当
大阪キリスト教短期大学幼児教育学科	平成24年9月から 現在に至る	非常勤講師(器楽)担当
小田原短期大学	平成28年4月から 現在に至る	保育学科通信教育課程 助教 (音楽表現ⅠA、音楽表現ⅠB、音楽表現Ⅱ)担当

所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
幼年教育実践学会	平成25年4月から 現在に至る	
日本保育学会	平成26年9月から 現在に至る	
日本オルフ音楽教育研究会	平成27年8月から 現在に至る	
日本音楽教育学会	平成28年4月から 現在に至る	
日本保育者養成教育学会	平成28年9月から 現在に至る	

社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
加東市、兵庫教育大学連携	平成25年5月24日	兵庫県加東市滝野図書館で開催された加東市と兵庫教育大

講座「子育て支援講座」		学の連携講座「子育て支援講座・親子ふれあい遊びーわらべうたを中心にー」において、ピアノ伴奏を行った。
加東市、兵庫教育大学連携講座「子育て支援講座」	平成26年5月29日	兵庫県加東市やしるこどものいえで開催された加東市と兵庫教育大学の連携講座「子育て支援講座・親子ふれあい遊びーわらべうたを中心にー」において、ピアノ伴奏、および演奏を行った。
第1、2、3回ヤマハジュニアピアノコンクール予選審査員	平成27年12月から平成30年2月	ヤマハ主催のジュニアピアノコンクール(第1回、第2回、第3回)において予選審査員を務めた。
名南フェスティバル	平成28年10月	兵庫県明石市立高丸小学校体育館にて「乳幼児を対象とした親子リトミックワークショップ」を実施した。
三幸保育カレッジ保育者受験対策講座	平成29年11月	実技講師として「音楽」を担当

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
中学校教諭専修免許音楽	平成19年3月	大阪府教育委員会
高等学校教諭専修免許音楽	平成19年3月	大阪府教育委員会
子育て支援コーディネーター	平成27年3月	兵庫教育大学

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 幼児教育における表現Ⅱ〈実践的研究編〉	共	平成30年1月	三恵社	本書は幼児教育における表現に関する専門書である。「音楽表現における合奏活動を通じた学生の気づきー協同性に着目してー」という論文を寄稿。本稿は、保育学生が合奏活動の経験から、協同性に関してどのような気づきをしていたか振り返りシートの自由記述から質的分析した。その結果、合奏の中で協同性が育まれる可能性に気づき、将来保育実践で役立てたい等、音楽の授業においても他の領域と相互に関連させた総合的な学びを得られていたことが明らかになった。 (崎浜聡、山西多加、萩原恵里、その他12名)
2. 幼児教育における表現Ⅰ〈理論的研究編〉	共	平成30年1月	三恵社	本書は幼児教育における表現に関する理論的専門書である。筆者は、1989年改訂の幼稚園教育要領において新しくまとめられた領域「表現」の変遷を辿った上で、現行の「表現」領域で示されるねらいや内容に沿った子どもの捉え方について、幼稚園での観察事例より検討した。その結果、幼児が興味惹かれるものに出会った時の不意な表出から、その感動を周囲に伝えようとする表現力に至るまでの育ちを支える教育の必要性について論じた。 (崎浜聡、山西多加、萩原恵里、その他13名)
(学術論文) 1. 子どもの遊びにおけるリズムに関する研究ー身体的同調に着目してー	単	平成27年3月	兵庫教育大学大学院人間発達教育専攻幼年教育コース修士論文	本稿は、兵庫教育大学大学院人間発達教育専攻幼年教育コースの修士論文である。幼稚園での自由遊びにおいて、個々のリズムを持った幼児達がどのようなきっかけで他者と遊びを共有していくのかについてH県内の幼稚園を約半年間観察した事例を分析、考察した。その結果、他者と遊びを共有する過程において、身体的同調が重要な役割を果たしていたことが明らかになった。

2. 子どもの遊びにおける身体的同調に着目したリズムに関する一考察	単	平成28年 3月	幼年児童教育研究 第28号	兵庫教育大学大学院で提出した修士論文の一部を加筆、修正してまとめたものである。主に、幼児が遊びの中でどのようなきっかけから他者と身体的同調し、その結果、他者とリズムを共有して遊べるようになるのか、その過程には今回の観察で得られたデータを分析した結果、4つのパターンがみられたことについて論述した。
3. 乳幼児を対象とした親子リトミックワークショップの事例研究	共	平成29年 3月	小田原短期大学研究紀要第47号	筆者達が、兵庫県A市で平成28年10月に実施した乳幼児を対象とした一回完結型の親子リトミックワークショップの調査である。一回完結型という特性から、親にとっての「楽しさ」、また、親からみた子どもの「楽しそうに感じる」内容について事後アンケートや観察記録から分析し、今後の子育て支援における一回型ワークショップのあり方や可能性について考察した。 (小松原祥子、福田明子、萩原恵里)
4. 保育者養成課程のスクーリング「音楽表現」における弾き歌いを中心とした効果的な教授法	共	平成29年 3月	小田原短期大学研究紀要第47号	短期間で修得しなければならないスクーリング授業において、受講生が楽曲を多角的なアプローチで学ぶことができるフォルマシオン・ミュージカルの理念を基盤とした授業実践を試みた。その教授法による受講生の学習効果を測るため、事前・事後アンケート調査を行い、統計分析を行った。その結果、短期間の授業実践において大きな学習効果があったことを示すことができた。 (小松原祥子、福田明子、木村文子、萩原恵里、崎浜聡)
5. 表現の基礎となるピアノ授業について—近畿圏の保育者養成校シラバスから本学のピアノ授業を考える—	共	平成29年 12月	大阪キリスト教短期大学紀要第57集	平成31年度より始まる新教職課程において、これまで教科に位置づけられていた音楽は5領域の表現に含まれる。現在、多くの養成校ではピアノに関して基礎技能を中心とした指導が行われているが、今後、専門的内容と指導法の両面に関連をもたせた授業展開をしていかなければならない。そこで本稿では、近畿圏にある保育者養成校の音楽授業のシラバスを比較分析し、今後の授業のあり方について考察した。 (川畑尚子、萩原恵里、大野明子、他7名)
6. 幼稚園における音楽アウトリーチの可能性	共	平成30年 3月	幼年教育WEBジャーナル第1号	現在、様々な形で行われている幼児を対象とした音楽アウトリーチに関する研究を概観した上で、アウトリーチ活動の継続性を問題意識として取り上げた。筆者達が実際に行ったK幼稚園での音楽アウトリーチで回収した保育者への事後アンケート及び、ビデオ記録を分析した結果、幼稚園でのアウトリーチ活動が継続的なものとなるためには、プログラムの工夫、保育者とのコミュニケーション構築等、実践側の3つの課題が明らかとなった。 (萩原恵里、木村文子)
(その他) 1. 日本保育学会第68回大会口頭発表(椋山女学園大学)	単	平成27年 5月	日本保育学会	子どもの遊びにおけるリズムに関する研究—なかなか遊びに入れない子どもの身体的同調過程に着目して—(単名)本発表では、幼稚園での自由遊びのなかで仲間との遊びになかなか入れない幼児に焦点をあて、そのような状況の幼児がどのようなきっかけから自身の気持ちを回復させ、他者と身体的同調し遊びを共有できるようになるのか、その過程について事例分析した結果を発表した。

2. 日本保育者養成教育学会第 2 回研究大会ポスター発表	共	平成 30 年 3 月	日本保育者養成教育学会	<p>本研究では「表現」実技科目の目的意識を共有することにより、学生の学びの質向上を目指すと共に、幼稚園教育要領で求められる「表現」を総合的に教授できるかどうかを検討した。方法としては、振り返りシートの自由記述についてテキストマイニングソフト KHcoder を用いて分析を行った。その結果、学生の学びとして「保育的配慮」、「アンサンブルにおけるタイミングや響きのバランス、仲間と創り上げていく難しさ」、「人前での弾き歌いのため積極的に練習に励む姿勢と今後の継続的学習の必要性の実感」が窺えた。連携については学生の学びの特性にばらつきはあるが、総合すれば互いに補填し合っていた。</p> <p>(木村文子、萩原恵里、福田明子、近藤正子、小松原祥子)</p>
その他 (表彰等)				